

2024年度 エコ・カレッジ（職域コース）報告

	開講日	テーマ
開講式		
第1回	7月25日	地球資源の循環と脱炭素の行動
第2回	8月30日	地球循環共生圏ローカルSDGsと茨城県代表予選会
第3回	9月27日	環境事例発表会 カーボンニュートラルと循環経済
第4回	11月8日	現地視察 ～福島第一原子力発電所事故の記憶と記録を学ぶ 「東京電力廃炉資料館」～ ～日本サッカー協会ナショナルトレーニングセンター 「Jビレッジ」～
第5回	11月22日	大気・廃棄物・水質の最新法令と我が国の動向
第6回	1月24日	地球温暖化防止活動推進員の事例報告
閉講式		



一般社団法人 茨城県環境管理協会

地域資源の循環と脱炭素の行動について

～第1回エコ・カレッジ～

エコ・カレッジ（職域コース）とは、地球規模の温暖化問題をはじめ、SDGs・カーボンニュートラル・資源循環を推進される担当部門に従事される方々に最新の知識を習得していただき、各事業に役立てることを目的に実施しています。今年度は職域コースと職域アドバンスコース合わせて、79名の方に参加いただきました。

7月25日にホテルレイクビュー水戸で、「地域資源の循環と脱炭素の行動」と題して、2024年度エコ・カレッジ（職域コース）第1回目が開催しました。



PART 1 地域資源

「地域資源活用による脱炭素行動の考え方と事例」

芝浦工業大学 理工学部環境システム学科教授 中口 毅博氏

「地域資源活用による脱炭素行動の考え方と事例」と題し、地域資源、脱炭素行動として全国の自治体の取り組み事例、低炭素まちづくりとその事例としてドイツのフライブルク市についてご講演いただきました。

地域資源とは、地域に関係する、ヒト（ボランティア等活動する人、観光大使等 PR する人、コンサルタント等相談に乗る人）・モノ（自然、名所旧跡、商業施設等の建物、イベント、文化、芸術、伝統等）・活動に必要な資金（補助金、出資、納税等）・情報（ノウハウや事例情報）であり、また住民力も大きな地域資源だとして、地球温暖化防止活動推進員の役割・使命・課題についてご説明いただきました。

続いて全国の自治体の取り組みとして、創エネ・省エネ・低炭素土地利用・低炭素交通・資源循環・気候変動適応行動の6つの分類に分け、新潟県上超市安塚区の雪氷熱の冷房・冷蔵への利用等、各地域の特性を生かしたものも含め様々な事例の紹介があり、低炭素まちづくりとその事例として、ドイツの再生可能エネルギー導入が盛んな理由や、その中でも都市の中で最も導入割合が高いフライブルク市の概要、行政・市民・企業による取り組みの事例や、ソーシャルワーカーの仕事内容を紹介し、紹介後にはドイツの美しい映像と共にクラリネット演奏を披露されました。



最後に、脱炭素社会実現のポイントである、主体的・自律的な脱炭素行動を手助けするためには、地域資源を活かし、住民力・企業力を引き出すことが大事だと述べられました。

「NEXCO 東日本におけるカーボンニュートラルへの取り組み」

東日本高速道路株式会社 技術本部 技術・環境部 環境課 課長代理
大林 正和 氏

「NEXCO 東日本におけるカーボンニュートラルへの取り組み」と題し、NEXCO 東日本の事業概要、NEXCO 東日本グループカーボンニュートラル推進戦略、バイオマスガス化発電プラントの取り組みについてご講演いただきました。



まず初めに、NEXCO 東日本の沿革及び会社概要や、事業概要として建設事業・管理事業・サービスエリア事業・高速道路関連ビジネスについて紹介いただきました。

続いて、NEXCO 東日本のカーボンニュートラル推進戦略の考え方や目標、事業活動における CO₂ 排出量の現状や CO₂ 排出量の削減の取り組み事例等の説明があり、取り組み事例として、高速道路や事務所など社屋内で使用する照明の LED 化や建物の ZEB 化、高速道路の空間を使用した太陽光発電等再生可能エネルギーの創造、eco インター・eco エリアの整備、緑地の適切な維持管理を行い樹木の CO₂ 吸収・固定による地球温暖化の緩和等様々な事例を紹介いただきました。

最後に、高速道路の維持管理で発生する刈草や剪定枝、伐採木等（バイオマス）の植物発生材を熱分解によりガス化・発電し、IC・料金所で使用する電力の一部として活用するバイオマス化発電プラントの取り組みを紹介いただきました。

今後技術革新が進むにつれてより新たなチャレンジもできるようになるので、それも含めカーボンニュートラルに取り組んでいき、また自社の取り組みを紹介することにより事業者様に貢献できればと思いますとのお言葉で締められました。

PART2 地域資源

「我が国のカーボンニュートラル バイオマス分野の普及」

一般社団法人日本有機資源協会 事務局 主任 本多 宏子 氏

「我が国のカーボンニュートラル バイオマス分野の普及」と題し、バイオマスの概要、日本の温室効果ガス排出量・吸収量の現状・バイオプラスチックについてご講演いただきました。

一般社団法人日本有機資源協会の概要を紹介後、バイオマスについて説明があり、バイオマスとは化石資源を除いた、二酸化炭素を増加させない再生可能な動



植物に由来する有機資源で、家畜排せつ物等の廃棄系・農作物非食部等の未利用系・糖質資源等の資源作物の3種類あり、まちにはバイオマスがあふれています。バイオマスの活用システムや活用する意義（地球温暖化の防止・循環社会の形成等）また経済性の向上が重要という活用する上での課題を説明いただきました。

続いて、日本の温室効果ガスの排出量や吸収量の現状、バイオマス活用に関わる国の施策等について説明があり、排出量は2013年の約14億tをピークに減少し2021年で11億2,200万t、吸収量は2014年に63.1tでしたが、人工林の高齢化による成長の鈍化により減少傾向にあり、2022年では50.2tになっているとのことでした。

最後に、バイオプラスチックの概要や国の施策、国や世界の情勢、環境ラベルについて説明がありました。バイオプラスチックとはバイオマスプラスチックと成分分解性プラスチック、その二つを併せ持つ3種類があります。バイオマスプラスチック類の普及は世界・日本で増加傾向にあり、国内の出荷量は2019年では6万tでしたが2021年には12万tを超え、それに伴いCO₂排出削減量も2019年では1万t、2021年には8万tと大幅に増加しています。

一般社団法人日本有機資源協会の活動でバイオマスの普及がカーボンニュートラルに結びついていくのを望んでいますとのことのお言葉で締められました。

「脱炭素化に向けた戦略づくりのための政策と実践」

地球環境戦略研究機関 上席研究員 藤野 純一氏

「脱炭素化に向けた戦略づくりのための政策と実践」と題し、環境対策の変換、SDGs と下川町についてご講演いただきました。

日本の現状は例えるならば穴の空いたバケツに灰色のエネルギー（輸入した化石燃料）を大量に投入している状態なので、穴を塞ぎ（省エネ）、綺麗な水を注ぎ（再エネ）、適切なサイズ（人口減少に伴うインフラの見直し）にしつつ気候適応をして、地域の資源で地域を豊かにしていきましょと説明いただきました。

続いて、戦後から2010年ごろまでの環境対策の変換とストックホルム+50会合、ストックホルム宣言の内容についてご説明されました。ストックホルム+50会合とは、1972年6月にスウェーデンストックホルムで国連が初めて世界全体で環境の事を話し合った国連人間環境会議から50年を記念して、再び2022年6月にスウェーデンストックホルムで行われた会合の事です。ストックホルム+50会合では10の提言がされました。

最後に、SDGs 成り立ちまでの経緯や概要、SDGs に取り組む北海道下川町について説明があり、下川町は地域活力の減退、人口減少により町の消滅の危機がありましたが、町民有志が下川町産業クラスターを発足、現在の下川町のまちづくりの基盤となる「森林共生グランドデザイン」を策定、更に持続可能な地域社会を目指す条例も策定し、取り組んだことにより、消滅可能性自治体から脱却することができました。

茨城の皆様もお近くの自治体に脱炭素の活動を働きかけながら、実践していきましょと述べられました。



地域循環共生圏ローカル SDGs について

～第2回エコ・カレッジ～

8月30日に、ホテルレイクビュー水戸において第2回エコ・カレッジ（職域コース）を開催しました。今回の講義は、午前「廃棄物処理法概論」を、午後は「盤州干潟と地域のトンボを守るビオトープづくり」をテーマにご講演いただきました。

「廃棄物処理法概論」

株式会社 日立製作所 エネルギー環境管理センタ長 鈴木良治氏

「廃棄物処理法概論」と題し、最初に不法投棄の実情、廃棄物の分類及び処理方法など廃棄物全般に関わる講演をしていただきました。不法投棄の実情としては、平成15年をピークに減少傾向にありつつ、建築系の廃棄物が約75%を占めること、また県内の事例として2023年7月15日茨城新聞に掲載されたつくば市の男性の方が、所有地に廃棄物が120トン不法投棄され、撤去費用に1000万弱かかったと紹介されました。2022年の不法投棄量（都道府県別）のデータでは、特殊な不法投棄により投棄量が膨大になってしまった県を除くと茨城県は3,618tと3番目に多くなっております。その背景からも、茨城県は不法投棄対策として、早期発見・通信体制の確立、監視・指導体制充実強化に力点を置いて取り組んでいるとのことでした。



続いて、許可証・委託契約書・マニフェストについて具体例を示して解説していただきました。廃棄物に関する細かな法律や手順を学んだところで、演習という形で実際にマニフェストを作成しました。とても複雑なマニフェストですが、受講者は真剣に取り組んでいる様子でした。作成時間終了後には鈴木氏から答え合わせとしての解説があり、廃棄物処理に実務で携わっている方やいない方にも、法律の基本から廃棄物処理全般を勉強できる貴重な機会を得られました。

「盤州干潟と地域のトンボを守るビオトープづくり

～自然環境保全の取り組みと地球温暖化が及ぼす身近な変化～

日本野鳥の会 千葉県幹事 /市原トンボ池の会 岡嘉弘氏

「盤州干潟と地域のトンボを守るビオトープ作り～自然環境保全の取り組みと地球温暖化が及ぼす身近な変化～」と題し、盤州干潟や里山の保全、地球温暖化と共に変化する身近な環境についてご講演いただきました。

まず初めに盤州干潟について、1950年代から干潟の埋め立てが大規模に行われる中、盤州干潟が残った経緯やそこにある豊かな自然などの概要が説明があり、次に、保全の取り組

みとして日本野鳥の会千葉県と木更津市の取り組みをご説明されました。自然を後世に残すためには市町村と連携した活動が必要と述べられ、日本野鳥の会は、木更津市が取り組む「きさらづ地域循環共生圏の創造に向けた取り

アクセス

- ・JR木更津駅西口より、三井アウトレットパーク行きバスで「野戸高須(くると・たかず)入口」下車(A地点) 15分
- ・JR巖根(いわね)駅→A地点1.8km 徒歩25分
- ・金木橋(かねぎばし・A地点)→干潟入口ゲート(B地点)1.8km 徒歩25分
- ・B地点→前浜(C地点)0.7km 徒歩10分 車は進入できません

ばんずひがた 盤洲干潟

自然ガイド

場所名

- ①干潟入口ゲート
- ②中州(なかつ)
- ③北部クリーク
- ④観音路
- ⑤中央クリーク
- ⑥浸透実験(しんと)うしっけん)池
- ⑦揚水ポンプ場跡
- ⑧ワセ池
- ⑨クロマツ林
- ⑩前浜広場
- ⑪砂州
- ⑫小龍川河口
- ⑬前浜干潟

植生の色分け

- 塩湿地植物**
 - ハマツツナ
 - マツナ、シオクグ
 - ヨシ、アイアシ
- 砂浜海岸植物**
 - ハマミルガオ、コウボウシバ、ハマエンドウ、ケカモノハシ
- 海岸陸生植物**
 - アスナギサ科
 - クロマツ林A、他
 - 樹木: ヲブキ、シャリンバイ、マテハシイ、エキなど

この自然ガイドは、房総半島の海岸環境保全活動支援事業(千葉県環境財団)の助成を受けて作成しました。

盤洲干潟 自然ガイド 改定版
2011.2.25発行

発行: 盤洲干潟をまもる会
編集・写真提供: 田村 満
執筆: 小倉文子、小林正司、高橋育男、田中靖二、中村光彦、成田篤彦、増本秀雄、湯谷賢太郎
協力: 池内千鶴子、臼井哲也・孝子、藤平量郎、永野達也(五十音順)
印刷: うらべ書房
(お問い合わせ) 行事案内などは、ホームページ「盤洲干潟をまもる会」で検索してください

干潟のイベント

クリーン作戦
盤洲干潟をまもる会では、市民の皆さんに呼び掛けて年1〜2回干潟域のゴミ掃除を行っています。そのあとアサリ汁が振る舞われ、干潟観察会があります。あなたも、大自然の中で一緒にいい汗をかいてみませんか。

干潟観察会
この干潟では、いろいろな団体が主催する自然観察会が行われています。野鳥や干潟の生きもの、カニ、さかな、海岸植物など、四季それぞれに楽しむことができます。このパンフレットが観察に役立てば幸いです。

探鳥会
カニなどの生きものは持ち帰りできません。

貝の海水浄化作用を調べる

危険な生きもの

アカエイ
尾の中間に毒針があり、干潟で最も危険な生きものです。潮の引いたクリーク(水路)や潮だまりに取り残されて、砂に潜っています。踏みつけていないように注意して、ジャブジャブ音を立てて歩けば逃げ出します。

アカクラゲ
長い触手に刺胞(しほう)があり、刺されると激痛が走ります。浜辺に打ち上げられた死んだものも、毒が残っているため触らないで下さい。

イシガニ
強大なハサミを持ち、攻撃的です。両手を広げているカニの前に手を出さないように。干潟では杭や石、蘆の周りに身を隠しています。同じ仲間のカニも同様の注意が必要です。

干潟で気をつけること

- ・**服装**、はきもの、持ち物 長靴、またはぬれてもよい靴、雨具、防寒着(冬期)、帽子、あれば双眼鏡、観察用具など。大潮や雨のあとは観察路がぬかるみます。
- ・**潮の干満** 干潮の前後2〜3時間が干潟の観察に適しますが、遠浅なので小潮でも観察はできます。大潮の満潮前後は、ワセ池付近の水路は渡れなくなります。
- ・**水路への立入り** 不用意に泥の深い所に入り込むと、足をとられて動けなくなる可能性があります。アカエイが潜んでいるかも知れません。一人で行動するときは特に注意してください。
- ・**流れ着いた危険なもの** 中身のわからない容器、スプレー缶、ガラスの破片などに注意してください。枝や根のついた竹は、目を刺す危険があります。
- ・**生きものへの配慮** 無駄に殺したりじめたりしないで、観察した後は元の場所に返してやりましょう。また、足元の海岸植物を踏み荒らさように注意して下さい。ここでは、アサリ、バカガイは漁業権が設定されており、採る事はできません。
- ・**地震、雷、洪水、強風** 事前にニュースや天気予報を調べ、無理をしないように。海岸は内陸よりも風が強いことがあります。
- ・**ゴミは捨てないで持ち帰りましょう。**

組み」の中の、「盤洲干潟エリアの保全・活用」に対して、自然環境保全地域の指定に向けての議論をお願いするなど意見を提案しています。

続いて里山の保全について、「市原トンボ池の会」が整備したビオトープの維持管理や生物の保護などの活動内容の概要や、耕作放棄地、竹林放棄、圃場

整備(水田乾田化)などの里山保全に関わる問題について説明されました。最後に地球温暖化による海の酸性化やシロクマなど絶滅の恐れや、日本に生息する台湾ウチワヤンマなど生物の生息領域の変化など、世界や日本での自然環境への影響を紹介されました。

最後に、自然環境保全活動とは、「トップダウン(国や県)とボトムアップ(市民活動)の取り組みの融合」「世代を超えて継承する継続性」「調査やデータに基づく解決策の提案」が大事だと述べられ、私達ができるCO₂を発生させない、また適切に緑を増やす行動を実践していきましょうと述べられました。



カーボンニュートラルと循環経済

～第3回エコ・カレッジ、2024年度 環境事例発表会～

ホテルレイクビュー水戸で9月27日に、第3回エコ・カレッジ、会員を対象とした環境事例発表会、茨城県地球温暖化防止活動推進員を対象とした第2回推進員研修会を同時開催いたしました。受講生や推進員、行政機関などあわせて約120名が参加しました。

PART 1 循環経済の発展事例

「亜熱帯地域における「脱炭素化」と「SDGs」の同時達成を目指して」

琉球大学 学長補佐 理学部教授 眞榮平孝裕 氏

省エネ住宅である ZEH・ZEB（エネルギー収支をゼロにする家・ビル）の説明、沖縄の気候風土や建物の歴史、沖縄の気候・風土にあった研究開発プロジェクトによる琉球大学の ZEH 実証実験棟の取り組み等についてご講演いただきました。

断熱とは熱の出入りを緩やかにするものなので、暑い地域の沖縄でもエアコンにより冷やした空気の流出を防ぐために、北海道と同じくらい断熱は必要と述べられ、最後に沖縄での快適さと省エネにつながる住まい方の提案で締めくくられました。



「食品残渣を有効活用した SDGs 製品の開発」

Appcycle 株式会社 代表取締役 藤巻圭 氏

青森県の廃棄りんごの現状、Appcycle 株式会社の概要及びに実績、今後の展望についてご講演いただきました。

Appcycle 株式会社は青森県のでりんご残渣を使用したエシカルレザー「RINGO-TEX」を開発しバッグ等に商品化していると現物と共にご紹介されました。

最後に環境や人類の未来を考えて共に切磋琢磨しながら良い環境をつくればという言葉で締めくくられました。



PART 2 脱炭素・サーキュラーエコノミーの実践事例

「カーボンニュートラルに向かう新産業の創造」

青森県経済産業部地域企業支援課

課長代理 宮川勝至 氏

青森県の産業の概況、カーボンニュートラルに向けた青森県のグリーントランスフォーメーションの取り組み、アップサイクルビジネスの県内企業取組事例についてご講演いただきました。



「製品開発段階における LCA の取組」

SOLIZE 株式会社 SOLIZE 開発統括部

サービス開発部 部長 清水俊光 氏

株式会社 SOLIZE の概要、LCA(ライフサイクルアセスメント)についての説明、製品開発段階での LCA の取組み、サーキュラーエコノミーに向けてについてご講演いただきました。



「事業所の気候変動対策 TCFD とスコープ 1, 2, 3 の対応」

リクロマ株式会社 営業部

マネージャー 大津拓也 氏

リクロマ株式会社の概要、気候変動対応の重要性、TCFD（民間主導の気候関連財務情報開示タスクフォース・(Task Force on Climate-related Financial Disclosure)）と Scope1, 2, 3 についてご講演いただきました。



「水素と CO₂ を利用した合成メタンから次世代ガスを製造」

東京ガス株式会社 茨城支社 共創推進部

部長 森下徹 氏

合成メタンの概要・メリットや活用用途、東京ガスの取組み事例、高効率機器の紹介などについてご講演いただきました。



「パネルディスカッション」

コーディネーター

山梨大学 水素・燃料電池ナノ材料研究センター

教授 吉積 潔 氏

講演後、吉積 潔 氏をコーディネーターにお迎えし、講演者と推進員の代表として磯崎達也氏をパネリストとしてパネルディスカッションを行いました。

講師の方々へ本日の感想や各分野について、また自治体に取り組んでもらいたいこと等、参加者からの質問に対する答えも含め、意見を述べられました。

各講師の皆様、素晴らしいご講演と、それぞれの機関や企業の本音、最先端の技術についてお話しいただき有意義な時間となりました。有難うございました。



現地視察報告

～第4回エコ・カレッジ～

11月8日、福島県において、第4回エコ・カレッジ（職域及びアドバンス）の現地視察を開催しました。福島第一原子力発電所事故の事実と廃炉事業の現状等を確認できる「東京電力廃炉資料館」と日本サッカー協会ナショナルトレーニングセンター「Jビレッジ」のご協力を得て視察を実施しました。

【東京電力廃炉資料館】

発電所周辺地域をはじめとした福島県民や国内外の多くの方々が、東日本大震災の原子力事故の原因と廃炉事業の現状等を確認できる場としてこの資料館を開館したそうです。



東京電力廃炉資料館での集合写真



東京電力廃炉資料館での集合写真

3つのゾーンで構成されているこの資料館は、ひとつ

は「情報ビジョン」、ひとつは「記憶と記録・反省と教訓」、そして、「廃炉現場の姿」に分かれています。シアターホールでは、地震発生時の状況や、施設内で発生した様々な影響とその対応などを再現映像を用いて説明があり、その他に、館内の展示、廃炉処理の現状や廃炉作業終了までの取り組み、汚染水や処理水に関する対策

などをロードマップや展示物で詳しく確認することができました。

【日本サッカー協会ナショナルトレーニングセンター「Jビレッジ」】

日本初のサッカーのナショナルトレーニングセンターとしてオープンした「Jビレッジ」は、震災発生後、福島第一原子力発電所事故の対応拠点として利用されましたが、2018年にふくしま復興のシンボルとして新たに生まれ変わって再始動しました。担当者から、施設



全天候型練習場前のフィールド

や震災時の状況などの説明を受けながら、展示物等を見学し、実際に

フィールドの上での注意点を聞いてから、天然芝や人工芝の感触を味わうことが出来ました。

最後に、今回の視察にご協力いただきました、「東京電力廃炉資料館」、「Jビレッジ」の皆様には厚く御礼申し上げます。



施設の説明を受ける受講生

最新の環境・廃棄物の動向

～第5回エコ・カレッジ～

11月22日にホテルレイクビュー水戸で、「大気・廃棄物・水質の最新法令と我が国の動向」と題して、第5回エコ・カレッジ（職域コース）を開催しました。

「廃棄物の動向」

株式会社 リーテム 取締役 浦出陽子 氏

「廃棄物の動向」と題し、廃棄物の定義と排出量・リサイクル率の推移、排出事業責任と廃棄物管理業務、小型家電リサイクルによる地域資源循環、廃プラスチック類の適正処理と資源循環、循環社会の実現と循環経済についてご講演頂きました。講演のまとめとして、廃棄物を再生原料にする場合は廃棄物処理法に従わなければならない、排出事業者は法定業務が求められる、1990年代後半から製品特性に合わせたリサイクル法が制定された、2022年にプラスチック（素材）の資源循環促進法が制定された、日本もリサイクルだけでなく製品を循環的に使い続ける経済活動がこれから活発になると述べられました。



「大気環境の動向

～地域大気汚染と気候変動を中心として～

愛媛大学名誉教授 若松伸司 氏

「大気環境の動向～地域大気汚染と気候変動を中心として～」と題し、50年以上にわたる大気汚染濃度と気象の時間値データの説明、光化学オキシダントの状況、微小粒子状物質（PM2.5）の状況、気象・気候変動と地球大気環境についてご講演頂きました。

大気汚染濃度は近年大きく改善されてきているが、今後とも対策が必要な大気汚染物質として光化学オキシダントと共にPM2.5があるとのことでした。

最後に地域大気環境の悪化と地球温暖化・気候変動は密接に関係しているので両者の関係を見据えながら対策を進めていくことが必要だと述べられました。



「水環境の動向」

筑波大学名誉教授 福島武彦 氏

「水環境の動向」と題し、新しい水質環境基準（底層溶存酸素量）、リン資源問題や海洋プラスチック汚染など水質汚染・汚濁に関する最近の話題、地球温暖化・気候変動の水環境への影響、琵琶湖など日本の湖沼の水質改善状況についてご講演いただきました。最後に下流汚染蓄積型湖沼の代表である霞ヶ浦の水環境の問題点や霞ヶ浦の水質浄化・新規都市用水の供給の確保・河川の流水の正常な機能の維持を目的とした霞ヶ浦導水事業、いばらき霞ヶ浦宣言2018についてご説明されました。



地球温暖化防止活動推進員の事例報告並びに閉講式

～第6回エコ・カレッジ開催報告～

1月24日にホテルレイクビュー水戸で、第6回エコ・カレッジ（職域コース）開催し、「茨城県地球温暖化防止活動推進員の事例報告」並びに閉講式を行い 2024年度の全日程を終了しました。

「地球温暖化防止活動推進員としての取組み事例」

衆議員議員 国光あやの氏

国光あやの氏が主催する「ゼロからわかる気候変動対策」をテーマに開催される「エコフォーラム」について、当日の開催の様子をご講演いただきました。講演では、気候変動対策が気軽に楽しく前向きに取り組んでいけるような活動を一緒に取り組んでいきたいと思いますと述べられました。



【閉講式】

閉講式では、茨城県県民生活環境部環境政策課の庄司英朗総括課長補佐から祝辞をいただき、当協会の森島理事長から職域コース及び職域アドバンスコースの受講者一人ひとりに修了証書を授与しました。最後に水戸市議会議員の田尻由紀子氏が修了生代表として「今までに学んだことを茨城の発展のために各地域に還元していきたい」と謝辞を述べられ、2024年度のエコ・カレッジ全日程を終了しました。



職域コース修了の皆様



職域アドバンスコース修了の皆様

【2024年度エコ・カレッジの開催結果】

- 第1回 7月25日 開講式／地域資源の循環と脱炭素の行動
- 第2回 8月30日 地域循環共生圏ローカルSDGsと茨城県代表予選会
- 第3回 9月27日 カーボンニュートラルと循環経済
- 第4回 11月8日 現地視察（東京電力廃炉資料館／Jヴィレッジ）
- 第5回 11月22日 大気・廃棄物・水質の最新法令と我が国の動向
- 第6回 1月25日 地球温暖化防止活動推進員の事例報告／閉講式

※2025年度を受講者募集については、[こちら](#)に掲載していますのでご覧ください。